

噴火湾環境情報 NO.1

2018/9/14

津軽暖流が湾内へ流入し始めました

道総研函館水産試験場
調査研究部
担当: 西田, 渡野邊

2018年9月10～11日にかけて、噴火湾及びその周辺海域の環境調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。深度10m、50mにおける水温、塩分の水平分布を図1に示します。10m深水温は19～20℃で、平年よりも約1～2℃低くなっています。また、10m深塩分は32以下の海域が広くみられ、その海域の塩分は平年よりも0.5～1低くなっています。

50m深水温と塩分の水平分布から津軽暖流(指標: 水温6℃以上、塩分33.6以上)の湾内流入が認められます。津軽暖流の湾内占有率は12.3%でほぼ平年並みです(図2)。湾内の50m深水温は津軽暖流の流入がみられる海域で例年よりも2～3℃高くなっています。

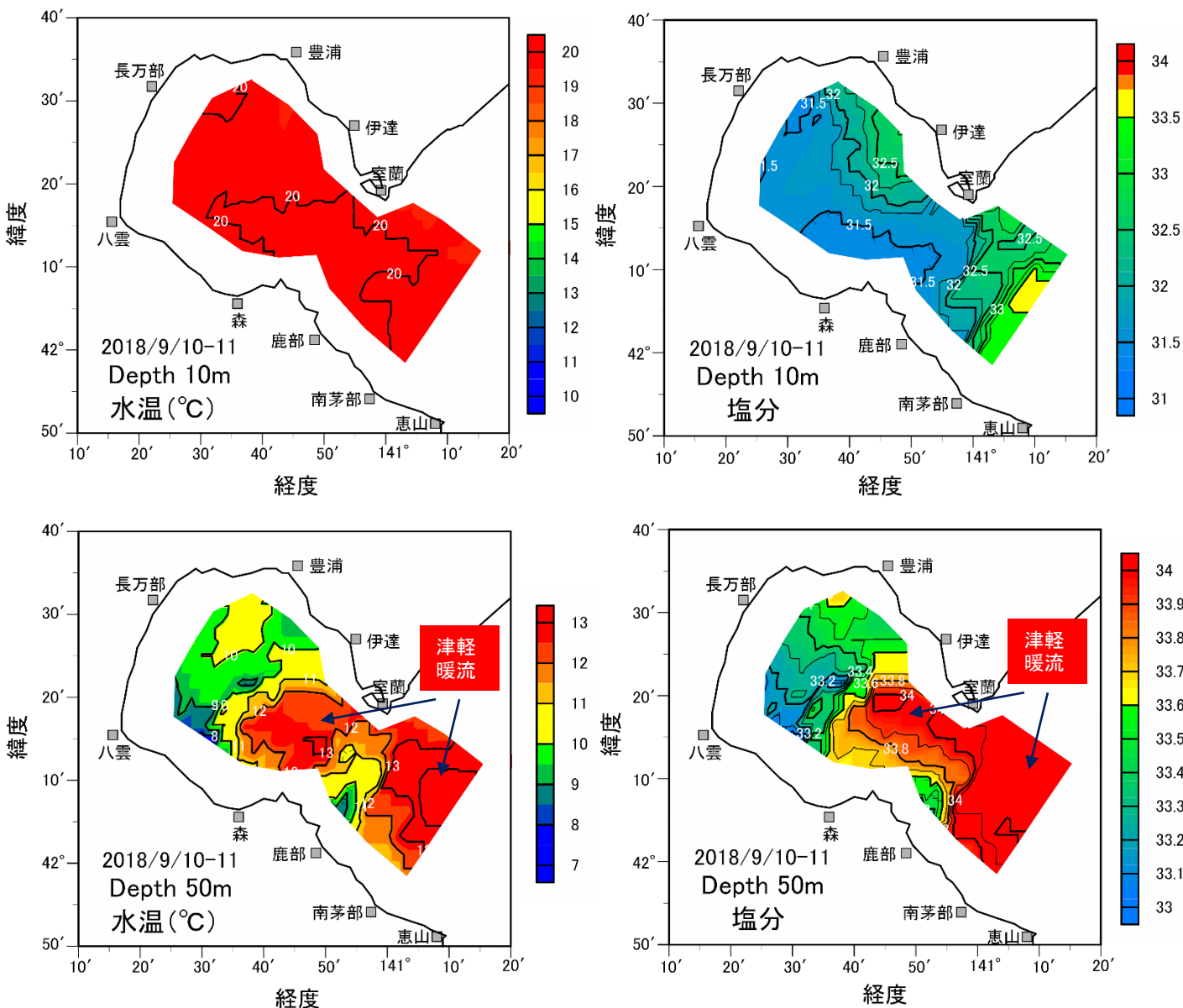


図1 噴火湾およびその周辺海域における(左)水温と(右)塩分の水平分布

噴火湾底層の溶存酸素量は、全域3ml/l以上であり、貧酸素水塊(指標:3ml/l以下)の形成は認められません(図3)。

湾内外の流速ベクトルの水平分布を図4に示します。例年湾内では初夏から湾全域を覆う時計回りの渦が形成されますが、今回の観測においても時計周りの渦が観測されました。ただし、例年と異なり、時計回りの渦は湾中央～湾奥部と湾口部の2カ所に形成されています。一方湾外では、恵山から室蘭に至る比較的強い反時計回りの循環流が認められます。

次回の調査は11月を予定しています。

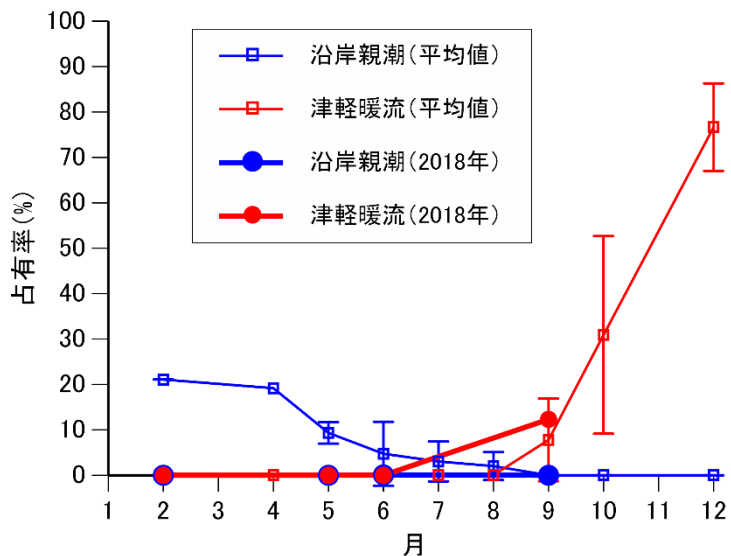


図2 噴火湾における沿岸親潮, 津軽暖流水の占有率

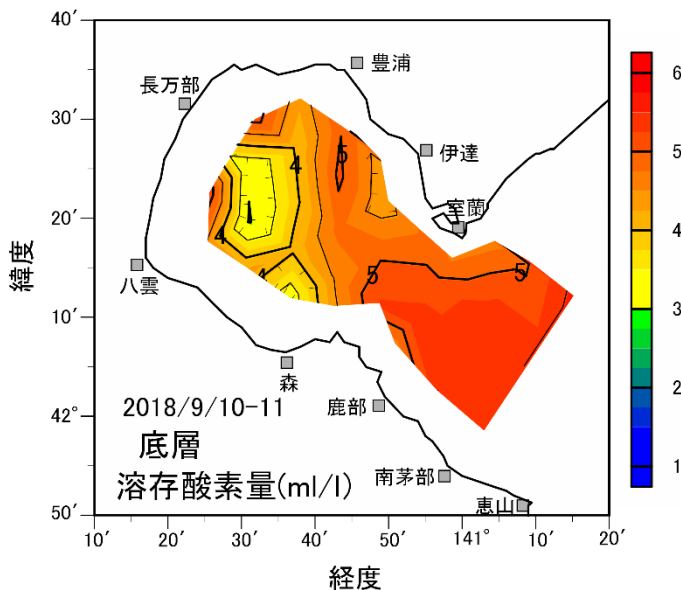


図3 底層の溶存酸素量

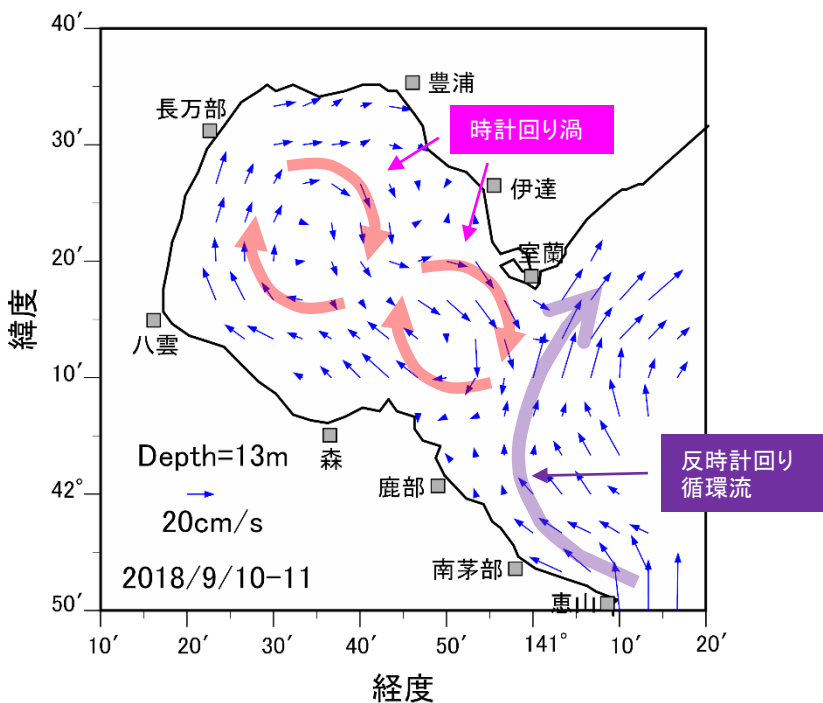


図4 流速ベクトルの水平分布